

中央大学学員会副会長を仰せつかりまして



中央大学学員会 副会長
三 和 彦 幸
(前会長)

日頃は学員会の活動に対しましてご支援、ご協力を賜わり誠にありがとうございます。

昨年（平成 22 年）5 月の学員会総会において副会長に選任され、それ以来財務担当として毎月の会長・副会長会議を中心とした学員会事業の執行に携わってまいりました。

本“絆”の紙面をお借りしまして、学員会の現状についてご報告させていただきます。

副会長を依頼された経緯

突然当会の宮内会長より久野修慈学員会会長（大学理事長が兼務）から副会長を依頼されたとの連絡があり、その後久野会長から直接電話にて学員会の改革に協力してほしい、副会長の定員を 15 名から 20 名に増やすので副会長になってもらいたいとの要請をいただき、お引き受けすることとなりました。

なお、当会からは幹事として川島さん、福田さん、宮内さんそして柏寄さんが会計監事としてご協力いただいております。

125 周年記念事業

ご案内の様に中央大学は昨年創立 125 周年を迎え大学の記念事業に学員会は学員の強力なサポートをもとに積極的に支援をいたしました。11 月

13 日の記念式典は約 1,600 名の参加のもと成功裡に無事終了いたしました。特に、募金活動にご協力いただきました当会の会員の皆様には厚くお礼申し上げます。

学員会の目的

学員相互の親睦を図り、母校中央大学の発展と使命達成に寄与することを目的として、奨学援助・学術研究に対する助成、研究会・講演会の開催、父母連絡会・学生との交流、学員時報の発行等の事業を行っております。

学員会の仕組みと組織

歴史と現状

大学創立の 3 年後 1888 年に校友会としてスタートし、その後院友会を経て現在の学員会組織となっております。卒業生のうち維持会費を納めたものが会員となり現在、創立以来の卒業生約 49 万人のうち 12 万人の学員によって支えられており、支部は 221（地域：111、年次：56、職域：54）となっております。

会費（維持会費、年会費）

維持会費は当初終身会費 3 万円でしたが、その後財政基盤が厳しくなり平成 15 年から卒業後 15 年経過したのち年会費 5000 円を徴収する

こととなりました。さらに、平成17年以降の入学生からは4年時に大学が一括して維持会費2万円を徴収し、卒業時に学会に振り込まれる代理徴収制度が始まりました。

学会収入の大部分を占める会費収入は、卒業生5000人の維持会費1億円と年会費5000万円(対象は6万人のうち1万人分)の1億5000万円となっています。

組織

学会本部と支部に分けられ、その構成は本部(学員総会、協議委員会、会長・副会長会議、常任幹事会、幹事会、会計監事、事務局)と支部(年次・地域・職域)からなっており、その関係、役割等は“学員会組織”をご参照ください。

我々の公認会計士会は職域支部に所属していることとなりますが、ここでは法曹界、体育会、南甲倶楽部が圧倒的な会員を擁しています。

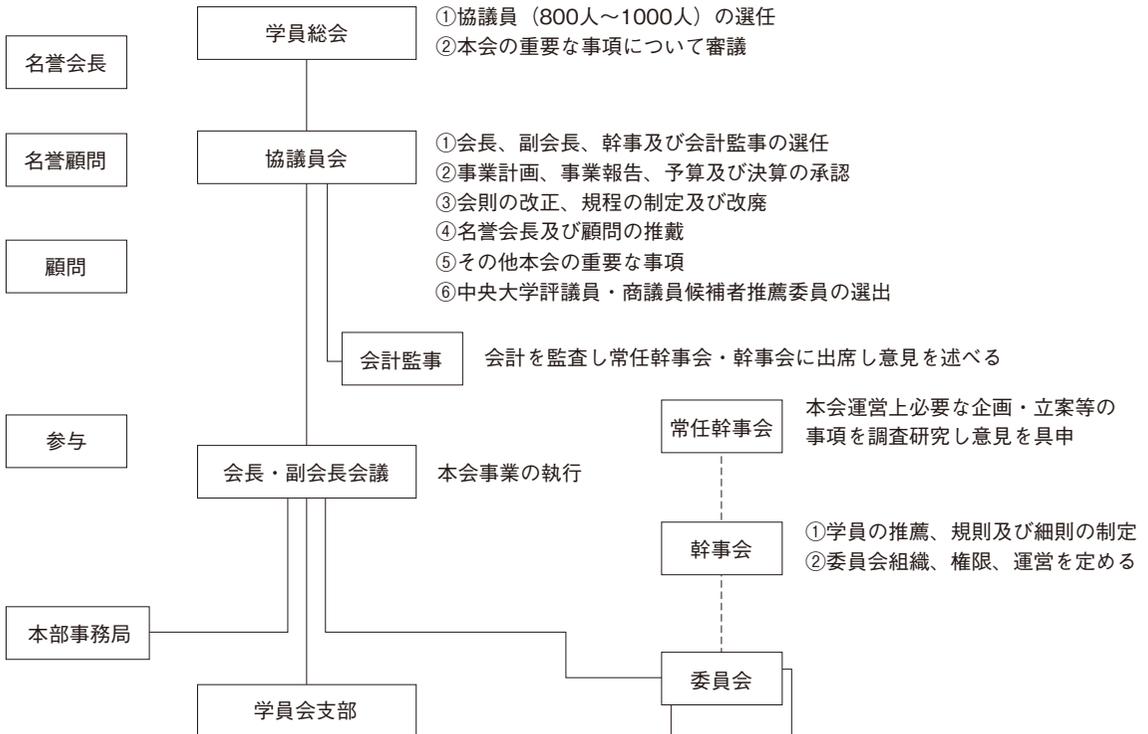
事業

目的遂行の本来事業は、すべての学員の躍進のために“Sympathy(親愛)・Support(支援)・Square(交流の場)”の3Sを提供することを主眼としています。具体的には学員時報の発行、支部活動支援、若手・女性学員活性化対策、在学生支援とともに組織強化(学員ネットワーク構築強化)にも注力しています。なお、約1億5000万円の予算の配分は本来事業費に60%、組織強化費、管理費にそれぞれ20%となっています。

抱えている課題

会員ニーズへの対応強化、組織の強化・活性化、情報環境整備、財政問題等の諸課題を抱えています。なかでも、若手会員の活性化は代理徴収制度との関連においても重要課題となっており、卒業と同時に年次支部の立ち上げと若手年次支部への支援が急務であります。

学員会組織



また、代理徴収対象外の卒業生に対する維持会費、年会費の在り方については2万円と3万円の違い、卒業後15年の規定（既に15年経過後維持会費を払って会員になった人は即年会費の支払い義務が発生してしまうなど）、会時報の発送との関連、年会費の徴収方法などの課題があります。

さらに、組織の面では役員構成、選任方法についても従来からの支部母体推薦方式などの検討・改善が必要となっております。私は会長のリーダーシップによる学員会改革の一環としての特別枠扱いの様ですが、何しろ私が2番目に若い副会長ですので学員会本部の若返りが最大の課題かもしれませぬ。

第18回（平成21年度）定時総会報告

平成22年6月29日午後6時15分より、駿河台記念館330号室にて中央大学公認会計士会の定時総会が開催されました。柏崎周弘幹事長より、会員数が683名に増加し、事業活動も活発になされ、特に今年はHPの新設を行ったのでぜひご覧頂きたい旨の報告が行われました。

続いて会計報告・監査報告がなされた後、宮内忍会長より前受金についての説明及び会計専門家としての範を示すべくその資金管理を適正に行っていく方針が示され、満場一致で承認可決されました。

事業計画については、特に有志の公認会計士による大学対抗ゴルフ大会（十月会）及び学員会主催の白門ゴルフ大会に関して、当会より参加費を補助するように予算化をしているので、積極的な参加の呼びかけがなされ、予算案については、当初、125周年寄付金は100万円が見積もられておりましたが、議場より増額すべきとの意見が出され、建設的な議論の末、200万円に増額して、そ

大学・学員会に対するさらなるご支援

当会計士会では、23年度から商学部での学生に対する協力講座や柏崎さんの学員会監事監査のサポートを計画して頂いており、学員会からも感謝されております。

今後とも年会費とともに学員会に対しましてのご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

また、大学を取り巻く環境は極めて厳しく中央大学も理事長を中心として積極的な改革を進めております。当会会員の皆様の大学に対するさらなるご理解、ご支援も併せましてよろしくお願いいたします。

幹事 吉井敏昭



れぞれ満場一致で承認可決されました。

最後に役員追加選任の件として、成田智弘、石野研司、柴毅の3名が幹事として選任され、満場一致で承認可決されました。

19時からは、会場を670号室へ移し、懇親会が催されました。宮内会長の開会挨拶の後、中央大学理事長かつ同学員会会長の久野修慈氏のご臨席・ご祝辞を賜り、各大学の公認会計士会等からは青学大、慶大、専大、早大、日大、法大及び明大の多数の役員のご参加を得ました。

また、中央大学総長・学長の永井和之氏からの祝電が披露されました。暫し歓談にて交友を深め、当日はワールドカップの日本対パラグアイの試合の日であったので、日本チームの必勝を祈願し、応援のため早めに帰宅するよう呼びかけがなされ、通常より早めの20時30分に盛会裡に閉会となりました。

「監査法人採用説明会・OB懇談会」 (経理研究所主催)に参加して

幹事
石野研司



猛暑激しい8月23日(月)に経理研究所主催で表記の会が駿河台記念館670教室で開催されました。

これは、内部統制監査制度等の定着や、上場会社数の減少等に伴い、監査法人も経営環境が一層厳しくなり、昨年に引続き定期採用枠の縮小が予想される中、当大学の公認会計士試験合格者がより多く監査法人に就職できるようにとの趣旨で開催され、当会が支援しております。

この説明会は、8月20日～22日の公認会計士論文式試験終了翌日にもかかわらず、出席者数が昨年の約40人から約70人を超える規模となり、再度、説明会開催及び支援の必要性を感じました。

当日は、まず当会会長の宮内忍(前日本公認会計士協会副会長)から、「厳しい就職環境ではあるが、諸先輩方の話を良く聞き、質問するとともに、面接でも十分にアピールして、是非就職してほしい。」との挨拶があり、その後、当会の役員等が所属する法人の若手会計士を引き連れたりの各監査法人からの説明となりました(各監査法人説明者 新日本：福原正三氏・成田智弘幹事、あずさ：柏崎周弘幹事長・石野研司幹事他、トーマツ：後藤徳彌会計監事他、あらた監査法人：柴毅

幹事他)。

各法人は、各80分の中で受験生への説明方法に趣向を凝らし、受験生全体と質疑応答する法人、小グループで質疑応答する法人、個人ごとにマンツーマン対応する法人等、受験生の様々なニーズに応えることができ、受験生は午前10時30分から午後5時という長時間にもかかわらず、時間が進むにつれ、出席者が増えていくという状況になり、ひっきりなしの質問に就職状況の厳しさと受験生の就職活動の真剣さを感じる次第でありました。

今後も中央大学の後輩諸君の当業界での活躍を支援すべく当会では一層の努力精進を重ねる所存です。



第23回CPAゴルフ十月会

会員
増田浩二
(元会長)

既にご承知の方も多いと思うが、公認会計士による大学対抗ゴルフコンペが毎年10月に開催されている。原則として10月の第1日曜日に開催されてきたため、十月会と呼ばれ、既に20年を超える歴史があり、毎年10校を超える大学の

OBが100名程度参加する盛況さである。このコンペは大学別の団体戦と個人別の個人戦があり、ダブルバリア方式のハンデキャップによるネットのスコアで競われる。あわせてグロス成績での表彰もある。

公認会計士のみによるゴルフコンペであるから、同伴競技者間で共通の話題が多く、また、異なる出身校者による組み合わせが採用されているため、出身校別の対抗意識も出て競技を面白くしている。さらに、競技終了後に開催される表彰式を兼ねた懇親会は一度参加すると忘れられない和気藹々とした雰囲気があり、何よりも100名を超える公認会計士の参加者が一同に会する様子は壯観である。

これまで、中央大学関係者は有志が中心となってこの会に参加してきたが、平成22年度からは中央大学公認会計士会の正式な行事の一つとして、会員の皆さんに参加を呼びかけることとなったのである。

さて、第23回となる昨年の十月会は、10月2日(土)に千葉県鶴舞カントリークラブで15校104名が参加して行われた。

鶴舞カントリークラブは、名匠井上誠一氏が設計した38年を超える歴史も持つゴルフ場で、距離があり戦略性に富んだコースとして有名である。

毎回、前回の団体戦の優勝校が幹事となり大会の運営と世話役を務めているが、今回の幹事校は法政大学であった。過去において中央大学も団体戦で優勝し、幹事校を努める名誉を得たことも

あった。

競技結果は、団体戦優勝はこの大会の強豪、早稲田大学で、個人戦優勝は立教大学出身の和田成史氏であった。中央大学の参加者はそれぞれ善戦したが、ハンデキャップに恵まれず、残念ながら第5位に終わった。今回の中央大学関係の参加者は、佐藤俊一、柴毅、山内輝茂、柏崎周弘、宮内忍、黒田克司、森谷伊三男の各氏(ネットの成績順)及び増田浩二であった。

次回も同じ鶴舞カントリークラブでの開催が予定されている。次は是非中央大学公認会計士会から沢山の方が参加されて、優勝することを願っている。



「祝・創立125周年 第21回白門ゴルフ大会」 参加報告

去る平成22年11月13日土曜日に、薄曇りという絶好の条件のもとで、我らが公認会計士会は今回も毎年恒例となっている学員会主催の白門ゴルフ大会に参加してまいりました。

今年で3年連続出場となります。大会には宮内会長、三和前会長、黒田克司さん、山内輝茂さん、田中達美さん、柏崎幹事長と筆者の2組7名(ウキウキチームとワクワクチーム)が出場し

幹事
伊藤 肇



ました。中には初めてご参加いただいた方も2名いらっしゃいましたが、同窓の会計士というだけですぐに打ち解けることができ、ネーミング通りに非常に和やかな雰囲気となり、終始笑いの絶えないチームが出来上がりました。年々チームワークが良くなってきた賜物なのか、実を言えば本気モードで優勝を狙っている人(鼻息荒い当会幹事長!)、引きずられて優勝を狙わされてしまっ

いる人（トホホ筆者）、仲間との談笑を楽しみに来ている人（その他大勢）が、いつの間にか一体となって、全員でこの大会を楽しむようになっておりました。…毎年参加しているにも関わらず、新ペリア方式なため優勝できるかできないかは運次第なことに、ラウンドしている最中に改めて気づいた次第です。トホホ…

今回のコースはかつてのトーナメントコースとして名高い茨城県の江戸崎カントリー倶楽部東コースでした。噂に違わず難易度の高い林間コースで、ラフのすぐ横が林になっており、林に入ると真横に出すしかないタフなコースでした。しかも、フェアウェイには効果的に大木などが配置されており、1打目がキャディさんのアドバイスとは逆のフェアウェイに行ったけど、まあまあかな？？？とも思っても、大概2打目がグリーンを直接狙えない高度な戦略が要求されるコースでした。

【競技結果】

公認会計士会ワクワクチーム 18位

参加者のお名前	グロス	ネット
宮内 忍（当会会長）	96	74
黒田 克司さん	92	75
山内 輝茂さん	86	76
柏崎 周弘（当会幹事長）	91	79

公認会計士会ウキウキチーム 27位

参加者のお名前	グロス	ネット
三和 彦幸（当会前会長）	104	79
田中 達美さん	92	76
伊藤 肇（当会幹事）	94	78

参加した学員会チームは総勢34組122名で例年通り大変盛況な会となり、新ペリア方式による団体戦と個人戦が行われました。結果はご覧のとおり、優勝にはほど遠い結果となりましたが、仲間と談笑しながら名コースを堪能した我々には、心地よい充足感がありました。

白門ゴルフ大会は毎年和気藹藹とした雰囲気で開催されており、どなたでも楽しくプレーすることができます。特に会計士会チームは、気さくな方ばかりで、初めての方が参加されても、楽しく気軽にプレーできることは折り紙付です。大会が近づきましたら、ご案内を差し上げますので、是非奮ってご参加くださいますようお願いいたします。



（精鋭？ 7名）

賀詞交歓会と IFRS 研修会



幹事
降旗京二

平成 23 年 1 月 21 日金曜日に中央大学駿河台記念館において賀詞交換会及び研修会を開催いたしました。

研修会は、当会の会員でもある加藤 厚企業会計基準委員会副委員長をお招きし「日本の会計はこれからどうなるのか～IFRS の基本的な考え方及び日本基準との相違」と題して、御講演をいただきました。

冒頭、宮内会長から加藤先生の略歴及び最近の先生のご講演は、解りやすいとの評判についてご紹介があり、講演会は始まりました。IFRS という少し構えてしまうことが多いのですが、先生は基準委員会副委員長ならではの裏話を織り交ぜながら言語明瞭に話されるので話に引き込まれて聞き入っておりました。そして、先生の名講義でたいへん理解し易くあっという間に予定の一時間が終了してしまいました。

研修会終了後、隣の別室に移り柏寄幹事長の司会の下、宮内会長のご挨拶、三和前会長の乾杯のご発声により懇親会が開催されました。今年は、

参加者が 60 名を超え会場が満員となり、テーブルのセッティングを変えなければならぬくらい大変盛況な会となりました。

本年度の合格者の方 26 名を御招待して参加いただきましたが、会場では諸先輩方と懇親を深める場面が数多く見られました。そして、御出席いただいた合格者全員一人ひとりに自己紹介をしていただきました。

合格者の中には、就職が未定の方もおられ、現在の会計士試験合格者を取り巻く環境の厳しさを痛感しましたが、そんな中でも前向きに会計士として進んで行こうとする後輩達を見てたいへん頼もしく思い、数多くの輝かしい経歴を誇る公認会計士を輩出している中央大学の伝統は守られていくと感じ入りました。

最後に、幹事長の後輩たちへの就職等への配慮のお願いとともに関東一本締めで閉会となりました。

来年度はさらに多くの方々に参加して頂けるよう幹事一同努力してまいります所存です。



この4年間で振り返って



幹事長
柏 壽 周 弘

私は、金井一夫元会長及び福田真也元会長並びに後藤徳彌幹事長のもと4年間会計幹事を担当、それまでの平幹事と合わせて8年間幹事として当会の運営業務にタッチしてきました。

後藤幹事長から引き継いで今度の総会で丸4年が経過します。一部の役員交代等はありませんでしたが、力不足の私を支援してくださった役員の方々の業績を紹介し、この4年間で振り返ることにより今後の当会のますますの維持・発展を願って筆を取りました。

我々役員一同は、三和彦幸前会長、宮内忍現会長ともども会員の若返り・会員数の拡大が重要であると認識し、両会長の御指導のもと、次のような施策を実行してきました。

1. インフラの整備

- (1) 公認会計士法改正に合わせた当会規約の改正（試験合格者の会員資格付与等）
- (2) 総会の活性化（配布する議案の拡充）と議事録の会員への送付による活動状況の周知
- (3) ホームページの立ち上げ（中原國尋、青木幹雄各幹事）
- (4) 入会申込書又は会員確認書の作成とこれに基づく会員名簿作成送付（加藤暁光会員、中原幹事）
- (5) 役員会開催（年3回）及び定例化
- (6) 役員分掌の一層の明確化（会計担当－河合明弘幹事、会報「絆」担当－岸田靖幹事、会員名簿管理担当－中原幹事、HP管理担当－青木幹雄幹事、ゴルフ担当－伊藤肇幹事、研修会・CPE申請担当－降旗京二幹事等 他は後出。）

2. 学員会本部事務局との連携強化と広報活動

- (1) 評議員、商議員、学員会幹事等の選任協力
- (2) 支部活動報告書の提出継続及びHPへの掲載（青木幹事）
- (3) 学員時報への事業記事掲載（石野研司、伊藤、吉井敏昭、三宅博人各幹事）と年賀広告継続による広報
- (4) 同会会計監事（5名中1名）への当会からの推薦及び同会会計監査補助の開始（22年度から 石野各幹事）による当会のプレゼンスアップ
- (5) 学員会主催白門ゴルフ大会への参加（狭山CC、桜ヶ丘CC、江戸崎CC、伊藤幹事）による会員厚生の増大

3. 大学・商学部事務局との連携強化と広報活動

- (1) 大学（商学部）主催の合格祝賀会への当会役員全員招待化と合格者への入会案内
- (2) 合格者数の伝達（大学の受験生向けへの広報資料への当会名の掲載）
- (3) 大学125周年記念事業への寄付（200万円）、大学の研究大会等への補助（寄付）

4. 経理研究所との連携強化と広報活動

- (1) 経理研究所への合格者（補修所入所）名簿・大学別合格者数の伝達整理
- (2) 会計士試験合格者の就職難に伴い、同所主催の研究所生への就職説明会の再開と定例化（後藤徳彌会計監事、石野、成田智弘、柴 毅各幹事）中大生・同卒業生への対象拡大が今後の検討課題

5. 会員数増大のためのその他の施策

- (1) 賀詞交歓会への合格者招待実施
- (2) 若年層の会員入会依頼（中原、梶山嘉洋、吉井各幹事）

6. その他

- (1) 日本公認会計士協会主催研究大会パーティ後の懇親会開催の継続
- (2) 有志で行われていた十月会(大学対抗)ゴルフの当会公式行事化(22年度から 鶴舞 CC)
- (3) 経費節減のための後納郵便の導入(22年度から)

また、現在は次なる施策として宮内会長のご指導のもと、

- ① 年次幹事の導入(伊藤、岸田、相山、吉井各幹事)

- ② 大学での協力講座担当(年度後期で13回講義 中原幹事)

- ③ 会員数拡大のための会計士補等の会費(現行3,000円)無料化

など当会の更なる会員数拡大・若返りを図るべく推進・検討しております。

当会の事業内容が拡大してきたため、会員の皆様にはこれまで以上のご協力をいただけますようお願いいたします。4年間本当にありがとうございました。

公認会計士試験合格体験記



商学部4年
角 真 一

私は、受験生活の中で3つの大切なことを学びました。これから、合格までの道のりを振り返りながら、それらについて述べたいと思います。

まず、一つ目は謙虚な気持ちです。私は大学入学直後から簿記の勉強を6月の日商簿記2級取得に向けて開始しました。吉田先生の授業はとても面白く、高校までの勉強とは比較にならないくらい簿記の世界の楽しさにのめり込みました。そして、楽しい、分かる、勉強する、できる、楽しい…という風に良いサイクルで勉強ができ、2級は満点で合格することができました。そこで、こんな短期間で合格できたのだから簿記は自分に向いているという自信を得ました。

その後も勉強は順調に進んでゆき、炎の塔の座席も無事確保でき、順風満帆の受験生活がスタートしたと思っていました。しかし、あるときから、簿記の楽しさからあまり勉強をしているという実感がなかつただけなのに、簿記は自分に向いているから、そんなに勉強しなくてもみんなよりできる、というような、今考えれば完全に調子に乗った気持ちで取り組むようになっていました。週末

はサッカーをしたり、自動車学校に通ってみたりと、次第に勉強時間が減っていききました。その結果、だらけ癖がついてしまい、秋ごろから成績が下がりだし、年明けからの巻き返しも実らず、2年の短答式試験に不合格となってしまいました。

このことから、結果が出ていても驕らず、先生方の助言などを素直に受け入れ、謙虚な気持ちで取り組むことの大切さを痛感しました。そして、2度と後悔することのないようこれからの受験生活を送ろうと決意しました。

二つ目は、自己コントロールの重要性です。私はこのことをイチロー選手の本から学びました。その中で最も心に残った言葉が「他人との競争に無関心になる」という言葉でした。それまでは、答練の結果に一喜一憂し、他人との勝ち負けを一つの満足基準にし、競争に勝つことをモチベーションとしていました。それが合格にもつながるとも思っていました。その頃の答練の成績も良くなかったので素直に世界一流プレイヤーのメンタリティーを取り入れてみることにしました。

まず、成績優秀者の順位表はさらっと見る程度

にして、返却される自分の成績表に集中するようになりました。そして、できていない部分をできるようにすること、ライバルを自分自身とし、自己目標を達成することに集中するようになりました。その結果、勉強が楽しくなり、成績も上昇し、良いサイクルで全てが回りだしました。このことから、自分のコントロールできることに集中することは本当に大切であるということを実体験からも学ぶことができました。

三つ目はメリハリの大切さです。私は、受験生活というものは孤独で、1分1秒を大切にひたすら勉強時間を増やし続けることが重要だと思っていました。あらゆるものを切り捨て、勉強に集中しようとしていました。しかし、そのスタイルにはネガティブな私にとって限界があり、モチベーションにムラができてしまう傾向がありました。

あるゼミの友達と比較的自分より勉強してなさそうなのにできるなという印象があり、その友達

の要領の良さを学びとろうと思い、あるときそれまでは断っていた誘いについていくことにしました。その友達といるときは受験の苦しさも忘れ、ストレスから解放される楽しさを覚えました。

それから答練の後はできるだけその友達と過ごすようにし、適度な息抜き、メリハリを心がけるようになりました。そうすると毎日安定したモチベーションで勉強することができ、「サボることと休むことは違う」ということを感じとりました。また、その友達グループ全員が合格できたので、ポジティブな良い仲間がいたからこそ自分は合格できたのだと今、強く感じています。

最後に、講師の方々をはじめ、多くの方々に支えられて受験生活を送り、合格することができました。本当にありがとうございました。これからも感謝の気持ちを忘れずに成長していきたいと思えます。

公認会計士試験合格体験記

商学部3年
石井 沙織



私が会計士になりたいと思い始めたのは、高校3年生です。私は中央大学杉並高校出身で、高校で経理研究所の説明会があったことがきっかけです。会計士は、様々な企業と関わり、社会に貢献することができる、素晴らしい仕事だと感じ、大学に入って簿記の勉強から始めました。

勉強が始まるとすぐに、中途半端なやる気ではいけないと痛感しました。寝不足で講義に集中できず、復習に時間がかかり、また寝不足になって講義に集中できない、という悪循環に陥ってしまったのです。また、毎週日曜日の答案練習が始まると、これがなかったら友達と遊びに行くのに、と思ってしまう自分がいました。そんな自分が情けなくて、仕方ありませんでした。勉強から逃げ

ることを正当化するために、自分にいろいろな嘘をつきました。

しかし、ある時、大切なことを思い出しました。この勉強は誰かに頼まれてではなく、自分がやりたくてやっているということです。そして、講義はいつも講師の方々が全力投球されているということ、合格してほしいという想いを込めて答案練習の問題を作成してくださった方々がいらっしゃるということです。両親が「自分のやりたいことをやりなさい」と言って、どんな時も私を信じて支えてくれていることです。こんな大切なことをいつの間にか忘れてしまっていた自分がとても恥ずかしく、このままではいけないと強く思いました。

それから、先に進めば進むほど、勉強は大変

なものになりましたが、常に「これは自分のための勉強で、いろいろな方のおかげで受験生活を送れている」ということを意識していました。その意識を持つと、勉強は苦ではなくなりました。自信を失くした時もありましたが、スタッフの方が「いっしょにがんばろう」と言葉をかけてくださり、ずっと私を支えてくださいました。答案練習の会場近くまで来て話を聞いてくださったこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、やはり会計士の仕事は、魅力的でとて

もやりがいのあるものだと考えています。その責任の重さや社会へ与える影響の大きさというものをしっかりと意識し、日々貪欲に学ぶ心を持っていなければならないと思います。これから困難にぶつかることがあっても、自分が感じた感謝の気持ちや仕事の魅力、たくさん大切なことを忘れていないかを、もう一度よく考え、気持ちをしっかりと持って乗り越えてゆきたいと思っています。

公認会計士試験合格体験記



商学部3年
中澤由佳

私が公認会計士試験に挑戦しようと思ったきっかけは、高校生の頃から簿記の勉強をしていて、ただその延長線というだけでした。しかし私は、この受験生活を通じて試験の知識以外に数えきれない多くのことを学んできました。

まず私が学んだことは、勉強は時間ではない、ということです。私は、試験勉強を始めたばかりの頃は特に、「炎の塔に開門後すぐに来て、閉門までいよう」という気持ちが強くありました。しかし、私のしていることはただ「いる」ということであって「勉強」していることではないと暫くの間気付かずに、一日炎の塔にいたことや、机に向かうこと自体に満足してしまい、だらだらテキストを眺めているときが多々ありました。また、私は短期集中型というタイプではなく、勉強をする時としない時のメリハリをつけるのが苦手だったので、自分が好きなことと両立しながら勉強するということができず、ほとんど友達とも話さずにわずかな時間も惜しんで勉強したつもりでした。しかし、そのことで自分に余裕が持てなくなり、だんだん勉強が辛くなって、公認会計士試験の勉強をやめようと思いました。

そこで私は、自分がしているのは本当の意味での勉強ではない、ということに気付きました。それからは、一日何時間勉強したかではなく、今日一日何を勉強したのか、ということを考えるようになりました。また、勉強している時には勉強時間を気にせずに、集中力が切れたら息抜きをして、満足したら勉強を再開するようになりました。そのことにより、勉強の効率や充実度が上がり、自分に余裕を保ちながら受験生活を送ることができました。

次に、私がここまで勉強を続けることができた活力についてです。私は大学2年生の5月の短答式試験に、大学3年生の8月の論文式試験に合格しました。短答式試験に合格した時に、このまま論文式にも合格したいという気持ちで、使える時間を全てつぎ込んで勉強してきましたが、その年の論文式試験には合格することができませんでした。まだ2年生だからと思えばそこまでですが、私の中ではとても悔しかったのです。勉強が辛くなったときは、その時の悔しさを思い出して、前年のような思いをしたくないという一心で勉強し続けました。この1年間、答案練習等での些細な

ミスでも悔しいと思うようになり、できない自分に決して妥協できませんでした。

合格してから暫くはその実感がわきませんでした。が、今までのことを振り返ってみると、今でも涙が出ます。一つの目標にがむしゃらに向かっていき、その結果得たものはそれだけとても大き

かったのだなと実感しています。しかし、この結果は決して自分の力だけで得たものではなく、これからもそのことを絶対に忘れずに、成長し続けていきたいと思っています。最後になりましたが、今まで私を支えて下さった全ての方に本当に感謝しています。有難うございました。

平成 22 年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1 位 (1)	慶應義塾大学	251 (257)	7 (一)	立命館大学	57 (一)
2 (2)	早稲田大学	221 (208)	8 (8)	神戸大学	49 (52)
3 (3)	中央大学	154 (159)	9 (7)	関西学院大学	46 (43)
4 (5)	明治大学	98 (65)	10 (一)	京都大学	45 (一)
5 (4)	東京大学	67 (84)	()	は前年順位及び人数	
6 (8)	同志社大学	62 (52)	他大学の人数は日本公認会計士協会の調査による。		

2010 年公認会計士試験合格者 (154 名)

氏名	学部等	在・大学卒	氏名	学部等	在・大学卒	氏名	学部等	在・大学卒
青竹 夏彦	商学部	4 年在学	折登谷達也	商学部	2009 年卒	設楽 廣太	経済学部	2010 年卒
阿久井 峻	商学部	4 年在学	加藤 新	経済学部	2010 年卒	島田 裕介	法学部	2009 年卒
朝比奈昌徳	経済学部	4 年在学	加藤 丈登	経済学部	2008 年卒	清水 拓磨	経済学部	4 年在学
東 武志	商学部	2000 年卒	門脇 高浩	理工学部	1994 年卒	新澤 寛樹	商学部	4 年在学
足立 悠也	商学部	4 年在学	川上 裕也	商学部	4 年在学	須川 雅史	商学部	2002 年卒
荒井 英貴	商学部	2009 年卒	川村 裕美	法学部	2004 年卒	杉江沙緒璃	法学部	4 年在学
安藤 晃一	商学部	4 年在学	川本 傑	法学部	2003 年卒	杉本 景司	商学部	2008 年卒
池田 淳一	商学部	2005 年卒	北 享司	法学部	2001 年卒	杉森絵里子	商学部	2010 年卒
石井 沙織	商学部	3 年在学	北島 嗣啓	総合政策	2005 年卒	鈴木 崇	法学部	2010 年卒
石垣 宏和	商学部※	2005 年卒	草野光太郎	商学部	4 年在学	角 真一	商学部	4 年在学
石橋 佑理	経済学部※	2010 年卒	楠本 亮	経済学部※	2009 年卒	角 達矢	経済学部	2004 年卒
石原 亮	法学部	4 年在学	久米 忠	通信教育	中退	関 崇浩	商学部	4 年在学
泉 悠佳子	中央大学大学院	2010 年卒	倉田 祐司	商学部	2009 年卒	泰山 正夫	中央大学大学院	2008 年卒
一瀬 真吾	法学部	2006 年卒	栗田 真尚	法学部	4 年在学	高杉 豪	商学部	2004 年卒
市原 央康	商学部	4 年在学	黒木 孝之	経済学部	1996 年卒	高橋 和江	商学部	2009 年卒
井上 智仁	商学部	2003 年卒	桑島 功光	商学部	2008 年卒	高橋 功	商学部	2006 年卒
井上 由貴	商学部	4 年在学	古賀健太郎	商学部	3 年在学	高橋 秀平	商学部	2010 年卒
今井 大	商学部	2007 年卒	小島 拓也	商学部	2 年在学	高橋 舞	経済学部	2010 年卒
上田 和也	商学部	2010 年卒	牛腹 誠	経済学部	6 年在学	高畑 亮祐	商学部	4 年在学
植田 光一	商学部※	2007 年卒	小牧 寛史	商学部	2006 年卒	高村 智美	中央大学大学院	2010 年卒
上野 清	経済学部	4 年在学	近藤 省平	経済学部	4 年在学	武 慶治郎	経済学部	2008 年卒
大上 敏行	商学部	2007 年卒	佐伯 啓太	商学部	2006 年卒	竹内 敬祐	経済学部	2009 年卒
大垣 邦紘	商学部	2010 年卒	坂井 信哉	商学部	4 年在学	田坂 一樹	経済学部※	2010 年卒
太田友香里	商学部	2009 年卒	佐川 祐企	商学部	2009 年卒	谷口 徹	商学部	3 年在学
大槻 健雄	法学部	1998 年卒	櫻井 啓二	商学部	2008 年卒	千葉 瑤恵	商学部	4 年在学
岡野 正典	中央大学大学院	1984 年卒	佐藤 和弘	商学部	2008 年卒	寺田 純也	商学部	4 年在学
岡部 崇征	商学部	2007 年卒	佐藤 沙織	商学部	4 年在学	戸田 達也	商学部	4 年在学
小川 哲	商学部	2009 年卒	佐藤 愛美	商学部	4 年在学	富沢 達也	経済学部	2010 年卒
小田 陽一	商学部	2001 年卒	佐藤 雄司	総合政策	2005 年卒	中川 純一	法学部	2007 年卒
小田嶋達也	経済学部	6 年在学	佐原 雄大	商学部	1989 年卒	長澤 孝紀	法学部	4 年在学

氏名	学部等	在・大学卒	氏名	学部等	在・大学卒	氏名	学部等	在・大学卒
中澤 由佳	商学部	3年在学	平山 雄輝	法学部	4年在学	宮崎 夕佳	法学部	2010年卒
中嶋 芳典	経済学部	2004年卒	深津 敬喜	商学部	2008年卒	宮下 貴行	商学部	2年在学
長島 義人	理工学部	中退	福島沙恵子	商学部	4年在学	宮本 貴裕	法学部	2000年卒
中原 乾哲	法学部	3年在学	藤岡 篤志	商学部	5年在学	宮本 知典	経済学部	2009年卒
中村 友哉	経済学部	4年在学	藤澤 秀	商学部	2010年卒	村岡 憲	商学部	2009年卒
南雲 拓也	商学部	2010年卒	藤田 有希	商学部	2010年卒	村田 拓朗	商学部	4年在学
鍋田 昌吾	商学部	2006年卒	藤村 昌平	商学部	4年在学	森 篤志	商学部	2010年卒
並木 祐弥	経済学部	4年在学	古門 宏章	法学部	2009年卒	森下 晶弘	商学部	2004年卒
行方 崇也	商学部	4年在学	穂迫 雄真	法学部	2010年卒	八木みなみ	経済学部	4年在学
二宮 一公	法学部	2009年卒	星野 奈々	経済学部	2004年卒	柳澤 昇平	商学部	2006年卒
根本 直拓	商学部	4年在学	前田 恭平	商学部	2009年卒	矢野祐太郎	商学部	4年在学
長谷場敬則	法学部	1998年卒	牧迫 誠也	経済学部	4年在学	山下 泰史	商学部	3年在学
服部 学	商学部	2003年卒	増山 雄貴	商学部	2007年卒	山中 幸夫	商学部	1997年卒
濱手 和也	商学部※	2010年卒	町野 絵里	商学部	2009年卒	山本 悟史	商学部	2008年卒
林 実穂	商学部	4年在学	町本 佳奈	商学部	4年在学	山本 貴之	商学部	4年在学
早藤 友啓	商学部	2008年卒	松本 武夫	理工学部	2005年卒	吉井 聡	総合政策	2009年卒
肥後 智子	文学部	2005年卒	圓山 千尋	商学部	2010年卒	吉川 嵩悠	法学部	4年在学
日高 慧	商学部	2010年卒	三池 晋	経済学部	4年在学	李 和美	商学部	2007年卒
水海 将司	商学部※	2005年卒	三澤 直人	法学部※	2003年卒	若杉 慶太	商学部	4年在学
平田敬太郎	経済学部	1998年卒	翠 雅俊	商学部	4年在学	脇野 智也	経済学部	3年在学
平田 進爾	法学部	2008年卒	水谷 健治	商学部	2010年卒			
平林 弘行	商学部	2006年卒	宮城 純平	法学部	3年在学			

- (注) 1. 学部の後に※がある合格者は、最終学歴が他大学大学院となっておりますが、本大学卒業時の学部と年次を記載し、これらの者を当大学出身の合格者としております。
2. 昨年度の紳16号に掲載した2009年公認会計士試験合格者名簿に記載が無かった2009年度公認会計士試験合格者は以下のとおりです。経歴等については合格発表時のものです。

氏名	学部	在・大学卒
丸山 達朗	経済学部	4年在学

3. 2010年公認会計士試験合格者は、経理研究所の協力を得て当会独自に調査したものです。

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災により被害を受けた皆様には心からお見舞いを申し上げます。皆様方には何卒一日も早く復興されますよう心からお祈り申し上げます。

合格発表の時期が遅くなったこともあり、当「絆」も年明け3月ごろの発行とさせて頂いておりますが、地震のあった3月11日も昼休みを利用して編集を行うなど、発行の最終段階まで来ておりました。このような未曾有の大惨事に際し、「絆」をどうするかについて幹事において検討致しましたが、予定通りの内容で発行させて頂くことにいたしました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。また、当会としても被災者の皆様に「何ができるか？」について検討を重ねていくことになるかと存じます。ご意見・ご要望等がございましたら幹事までご一報下さい。

今回の「絆」では巻頭において中央大学学生会副会長に就任された三和前会長から、その経緯と抱負、課題等についてご寄稿頂きました。

また、当会平成21年度定時総会の内容について吉井幹事から報告して頂きました。

一昨年ぐらいから顕在化している会計士試験合格

者の就職問題については、当会として就職活動を少しでも支援すべく中央大学経理研究所主催の「監査法人採用説明会・OB懇談会」に協力しておりますが、その内容について石野幹事から報告して頂きました。

ゴルフの話題については当会の公式行事となったCPAゴルフ十月会と恒例の学生会主催白門ゴルフ大会について増田元会長と伊藤幹事からそれぞれご寄稿頂きました。

毎年、中央大学公認会計士会主催の新年賀詞交換会を開催しておりますが、今回はその模様を降旗幹事に寄稿頂きました。

また、当年度をもって4年間に亘る幹事長を退任される柏崎幹事長から、4年間の総括についてご寄稿頂きました。長い間、大変ありがとうございました。

今年も多数の合格者が中央大学から誕生しました。当年度の会計士試験合格者の中から角さんと石井さん、中澤さんには恒例の合格体験記をご寄稿頂きました。

幹事一同、出来る限り会員諸先生方にとって有意義な活動となり、さらに中央大学公認会計士会に入って良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりまして、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆中央大学公認会計士会役員◆

会 長	宮内 忍	商学部・昭和45年卒	幹 事	梶山 嘉洋	商学部・平成15年卒
幹 事 長	柏崎 周弘	商学部・昭和53年卒		中原 國尋	大学院商学研究科・平成13年修了
幹 事	青木 幹雄	商学部・平成13年卒		成田 智弘	商学部・昭和59年卒
	石野 研司	商学部・平成4年卒		降旗 京二	商学部・平成2年卒
	伊藤 肇	商学部・平成元年卒		三宅 博人	経済学部・平成元年卒
	江添 慶範	商学部・平成3年卒		吉井 敏昭	商学部・平成3年卒
	河合 明弘	商学部・平成3年卒	会計監事	中根堅次郎	商学部・昭和46年卒
	岸田 靖	商学部・昭和61年卒		後藤 徳彌	経済学部・昭和49年卒
	柴 毅	商学部・昭和58年卒			

中央大学公認会計士会報 No.17

平成23年3月31日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

宮内 忍

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5
中央大学駿河台記念館4階
中央大学経理研究所気付